

まなび場 天声人語

言葉磨く10代

見出し

天声人語に見出しをつける「まなび場天声人語 見出し講座」では、10代前半の学生たちからも編集者をうならせる作品が届いています。学校や学習塾での取り組みを取材しました。



良いと思った作品が一緒だった、甲陽学院中の生徒と嶋吉由喬先生。「気が合うね」と握手した＝2023年11月29日、兵庫県西宮市、金居達朗撮影

「みんながどんな工夫をしているか、目を通してみて」。昨年11月下旬、私立甲陽学院中（兵庫県西宮市）1年生の国語の授業。嶋吉由喬先生（61）が生徒たちと呼びかける。和気あいあいとした雰囲気だった教室。プリントが配られると、一気に静かになり、生徒たちは真剣に目を通り始めた。

見出し作りに、国語の授業の一環で取り組む。1年生約200人の作品にクラス内投票をしたり、感想を言い合ったり。この日は、良いと思った作品とその理由を発表し

甲陽学院中(兵庫県)

た。お題は、「9・5^ミフィルム」と100年前に輸入されたた個人向け撮影・映写機「パテベビー」を取り上げた、11月4日付の天声人語だ。

「9・5^ミmmで紡がれた歩んだ軌跡は ∞ km」を選んだ生徒は「9・5^ミmmという小さいものから、 ∞ という大きなものを出したのいいなと思った」。「ささやかで小さいものに描かれているのは、歴史とか大きな出来事だけど、大きな出来事と書かずに、 ∞ kmと伝えているところがカッコいいし、うまい。そういうことやんな」と嶋吉先生が解説

を重ねる。

見出しをつけるとは、内容をつかんで表現する、その表現を工夫する。ひらがなやカタカナなどの表音文字を生かす――。授業は進んでいく。

嶋吉先生は、2019年度から新聞のコラムを授業に取り入れている。黙読や語句説明、コラムの読み比べ。「最初から国語嫌いをつくらないきっかけとしても、なるべくなくさんの文章に接するということでも、有意義です」と話す。

甲陽学院は、1学年約2000人の中高一貫校。東大や京

大などに毎年多数の合格者を
出している進学校だ。数学が
得意な生徒が多い中、嶋吉先
生は「書くことへの抵抗を減
らしたい」と、正確さを目的
にしたコラムの書写も行って
いる。「まとまった短い文章
で、世の中の出来事を様々な
角度でとらえている。興味が
湧きやすいと思います」

語に「老甲斐」と見出しを付けた川本悠仁さんは「文章中の『老害』が印象に残っていて、漢字とかを変えて言葉にできないかと考えてたら、ご飯を食べているときに急に思いついた」と笑顔。「ヒトの進化と深化」と付けた仲田優人さんは「いい題を思いつくまでは大変だけど、思いつくと理由まですらすら書いて楽しい」と話す。

国語への敷居を低くして、楽しみながら真面目に取り組む。生徒たちは、見出し作りも楽しんでるようだ。

（望月夢葉）

(望月愛実)

先輩に続け 競い合う塾仲間



「まなび場天声人語」のページを開く矢野宏弥さん（左）と菊田啓太さん（右）

山梨県を中心に展開する総合学習塾「甲斐ゼミナール」。北口本部教室（甲府市）の菊田啓太教室長（M）が受け持つクラスでは、2023年2月から、数十人の生徒が見出し作りに励んでいる。当初は小学校高学年、今は中学生にも参加の輪が広がった。

甲斐ゼミナール(山梨県)

を教材として活用していたという菊田さん。「受験勉強だけでは、広い意味での国語力を身に付けてほしい。語力（天声人語の）603文字は、子どもたちが社会を見るための窓になると思います」応募してすぐ、小学6年生だった矢野宏弥さんの「色とりどりの『普通』 門出の日」が優秀作に選ばれた。国日によって変わる「普通」とは、を問うテーマだ。今は県内の甲陵中学校（北杜市）に通う矢野さんは「記事の言葉をも自分なりにどう言い換えられるか、努力しました。見出し作りは、筆者の言いたいことを考えながら読むきっかけになりました」と振り返る。

半年後、数学オリンピックの回は、1学年後輩である関創太さんの「数学には役に立たない魅力がある」が選ばれた。自身も応募する菊田さんは「先輩に続けと、良い競争意識が生まれているように感じます」。

（山本修蓮）

(山本悠理)

天聲人語

見出し募集
11月28日付
締め切り
1月14日

天声人語

手塚治虫は、締め切り当日に、代表作「ブラック・シックス」が手つかなかったとある。他の仕事を片つけた上で、複数のあつちし案をひねくり出す▼「案を四つ考えるんだったらもう二回四つ考える。その中で選んでらうわけです」。作品のためなら時間労力も惜しまない。鉢巻をしめ、ペンを走らせる。吉本浩一、宮崎亮著「ブック・ジャック創作秘話」が伝える光景には、鬼気迫るものがある▼そんな執念は、やはり遺物なのか。最新の週刊少年

チャンピオンで、Aを使って描かれた
ブラック・ジャックを読んだ。機械の心
臓を持つ少女の病気に挑む話!『過去作
を学んだAが、人の求めに応じたシナ
リオ案を示し、新キャラクターの原画も
作ってくれた。Aにだか、四つ
どころか、何回だめ出しても全くめ
げずに案を出す。それが魅力だったと編
集部はコメントしている▼技術の進歩は
速い。今回は人が創作の手綱をきいた
が、Aの補佐役になる日がいずれは来
るかもしれない。その作品に、何かを表
現したいという情熱は、ずっと刻まれて
いるだろう。ものを生み出すことの価値と
は。思いが去来した▼かつての作品に
、主人公が医師の医者に問われる場面が
ある。「人間が生きものの生き死にを自
由にしようなんて、おがましい!は
思わなかね」。同じセリフをAが書
いたら、人は感動を覚えるだろうか。

2023.11.28

15字以内の見出しと、考えた理由(100〜200字)を投稿してください。優秀作は11月22日の朝刊で紹介し、図書カード3千円分を差し上げます。応募は専用サイト＝QRコード＝から。郵送の場合、住所・氏名・年齢(在学中の場合は学年も)を記入の上、〒104・8011 朝日新聞コンパイル編集センター(〒157-8502東京都目黒区上原1-15-1)へ、締め切りは11月14日(消印有期)まで。

15字以内
い。優秀作
げます。応
名・年齢(

天聲人語

天声人語書き写しノート 5種類

「天声人語書き写しノート」は天声人語と同じ字数、同じ行数のマス目に書き写す専用ノートです。「通常版」のほか、要約などの要素を加えた

「学習用」、脳を鍛える「脳トレ版」、読みやすい文字が書けるようになる「美文字版」、英訳を書き写す「英訳版」の5種類があります。ご購入は、ASA（朝日新聞販売所）や大手書店で。▲原寸大のマスキです。書き写しにトライ！